

# メタンハイドレート

## ■ 用語解説 ■

メタンを中心にして周囲を水分子が囲んだ形になっている固体結晶である。低温かつ高圧の条件下で水分子は立体の網状構造を作り、内部の隙間にメタン分子が入り込み氷状の結晶になっている。石油や石炭に比べ燃焼時の二酸化炭素排出量がおよそ半分であるため、地球温暖化対策としても有効な新エネルギーであるとされる。

ハイドレートの網状構造を維持するためには、環境が低温かつ高圧であることが求められ、地球上ではシベリアなどの永久凍土の地下100m～1000mの堆積物中や、海底でこの条件が満たされ、メタンハイドレートが存在できる。

採取方法に色々な課題があり、現在では商業化されていない。